

(共同リリース)

 2025年4月1日
 多摩川エアロシステムズ株式会社
 日本航空株式会社

リチウムバッテリー式電源装置「eGPU」を函館空港に初導入

～CO2排出と騒音の削減により環境にやさしい空港を実現します～



多摩川エアロシステムズ株式会社(本社:東京都大田区、代表取締役社長:西井 宗博、以下「TAS」と日本航空株式会社(本社:東京都品川区、代表取締役社長 グループCEO:鳥取三津子、以下「JAL」)は、2025年4月1日より、CO2排出削減や騒音の軽減が期待されるリチウムイオンバッテリー駆動式電源装置「eGPU」を函館空港に導入しました。

航空機には補助動力装置(以下「APU」)が搭載されており、駐機中に稼働させることにより航空機に必要な電力や空調を自前で供給することができます。しかし APUは多量のCO2などを含む排出ガスや騒音を発生させることから、駐機中に必要な電力、空調をディーゼルエンジン式の電源装置「GPU」から供給することにより、駐機中における空港環境負荷の抑制と航空機用燃料の削減に貢献していました。

このたび函館空港へ「eGPU」を導入することで、従来比でCO2排出量をゼロに削減(年間約21トン削減)し、騒音は約30%軽減(65db以下)します。これにより、オペレーターの労働環境の改善や、空港周辺の騒音・環境問題を軽減、さらには地球環境保全に寄与することが期待されます。



ディーゼルエンジン式電源装置(GPU)



リチウムイオンバッテリー式「eGPU」



100%削減



約30%削減

JALグループは、これまでもITW GSE社製の「eGPU」を国内空港に導入^(※1)し、ボーイング737-800型機などの小型機で使用してきました。このたび、函館空港への導入においては小型機での使用に加え、初めて^(※2)中型機であるボーイング767-300型機にも使用します。ボーイング767-300型機では「eGPU」をフル充電した状態で、ターンアラウンド(航空機が到着してから出発するまでの時間)約6便分の電力供給が可能です。

(※1): 北海道においては、北海道エアシステム(HAC)が道内3空港に導入しています。(丘珠・奥尻・利尻)

(※2): JALグループでは同時期に出雲空港においてもボーイング767-300型機に使用を開始します。

JALは脱炭素化に向けた国土交通省航空局が提唱する空港施設および空港車両のCO2排出削減に向けた取り組みの一環として、国内の空港に「eGPU」配備の検討をしてきましたが、充電設備の設置が課題となっていました。

このたび導入する函館空港では「令和6年度空港における脱炭素推進事業(空港における再エネ活用型GPU等導入支援)」事業の採択を受けて充電設備の設置とともに「eGPU」の導入が実現しました。

JALとTASは、これからも地球の環境保全に寄与し、より持続可能な航空業界の実現に向けた取り組みを継続してまいります。

以上